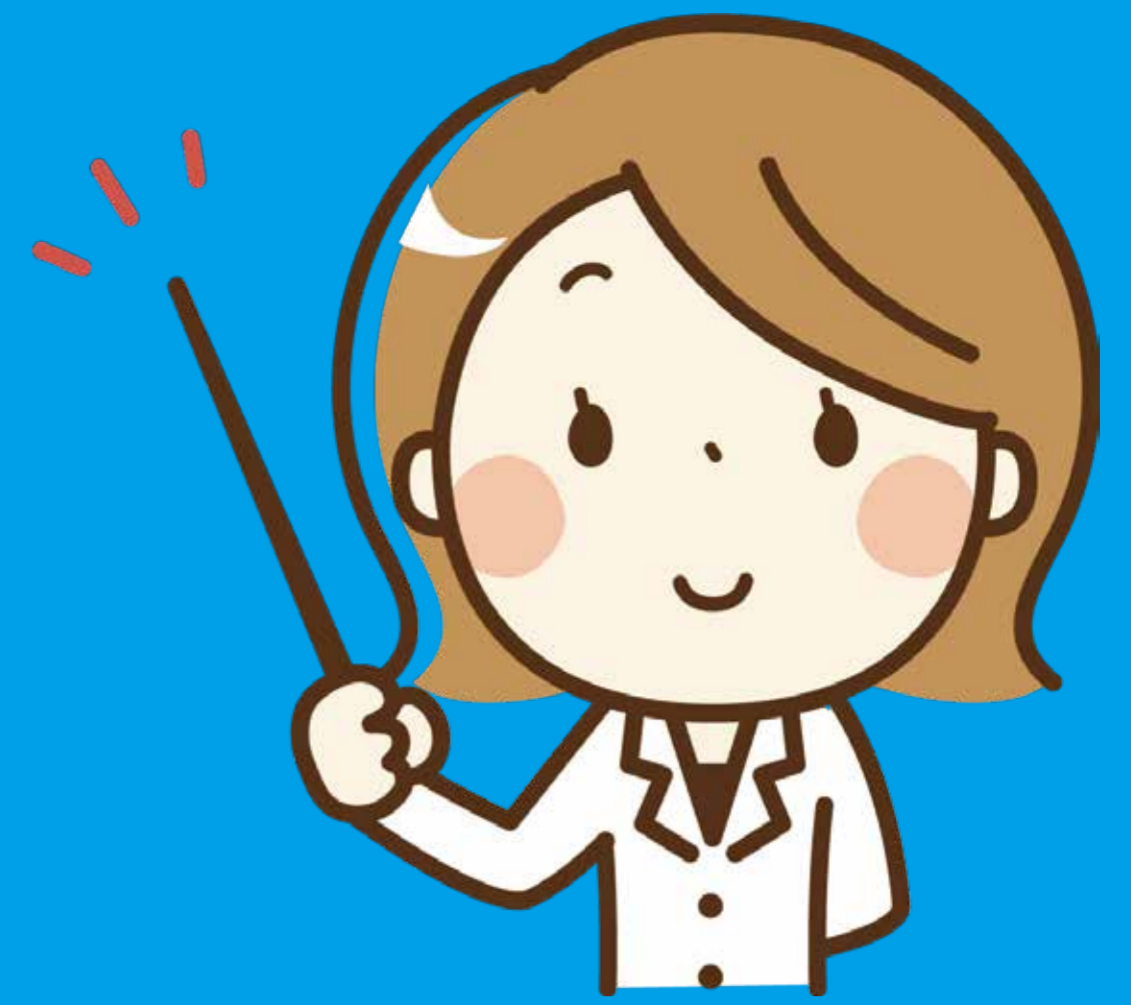


電気ケトル

を調べてみました



テスト期間

平成27年12月～平成28年3月

対象品

北陸三県の家電量販店、電気店、ホームセンター等の店舗で購入した9銘柄の電気ケトル

	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9
定格消費電力	1250W	1250W	1300W	1300W	1300W	1150W	900W	1000W	1100W
Sマーク	—	有	有	有	有	—	—	有	有
定格容量	0.8ℓ	0.5ℓ	0.6ℓ	0.8ℓ	0.8ℓ	0.75ℓ	1.0ℓ	0.8ℓ	0.8ℓ
本体重量※	0.54kg	0.77kg	0.79kg	0.74kg	1.03kg	0.81kg	0.61kg	0.88kg	1.06kg
生産国	中国	中国	中国	中国	中国	中国	中国	中国	中国
購入価格	3,974円	6,156円	7,689円	5,378円	7,538円	8,640円	2,570円	3,218円	5,378円
備考	注ぎ口 カバー付き		本体 二重構造 蒸気レス	本体 二重構造	蒸気レス 1時間保温 可能	11色から 選択		本体 二重構造	本体 二重構造 4段階 温度設定

※：実測値(電源プレートの重量を除く)

電気ケトル を調べてみました

テスト結果 ①

表示事項

電気用品安全法に定める「定格電圧、定格消費電力、定格周波数、事業者名、PSEマーク」の表示および家庭用品品質表示法「電気ポット」に準ずる「定格容量、使用上の注意、表示者名等」の表示は、**すべての銘柄で適正**になされていました。

電気製品の安全のため、第三者認証機関が製品試験や品質管理の調査を行い、安全性を客観的に確認したことを示す**Sマーク**は、任意ですが、**6銘柄**で表示されていました。

仕様等

本体の満水線まで水を入れて測定したところ、定格容量との差は、すべての銘柄で家庭用品品質表示法に準ずる基準の範囲内でした。

安全性

→ 転倒流水試験

定格容量の水を入れた電気ケトルを右図に示す方法（ロック機能がある銘柄はロックした状態）で転倒させて、流水量を測定しました。

Sマークのある6銘柄はすべて業界自主基準（流水量が50ml以内）の範囲内であり、うち2銘柄は全く流水しませんでした。

これに対し、**Sマークのない3銘柄**では、いずれも**50ml以上の流水**がありました。

PSEマーク



No.1

No.4

No.7

No.2

No.5

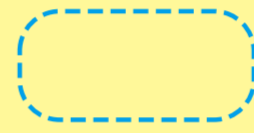
No.8

No.3

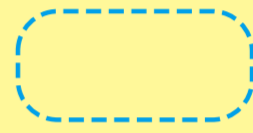
No.6

No.9

Sマーク



No.4



No.2

No.5

No.8

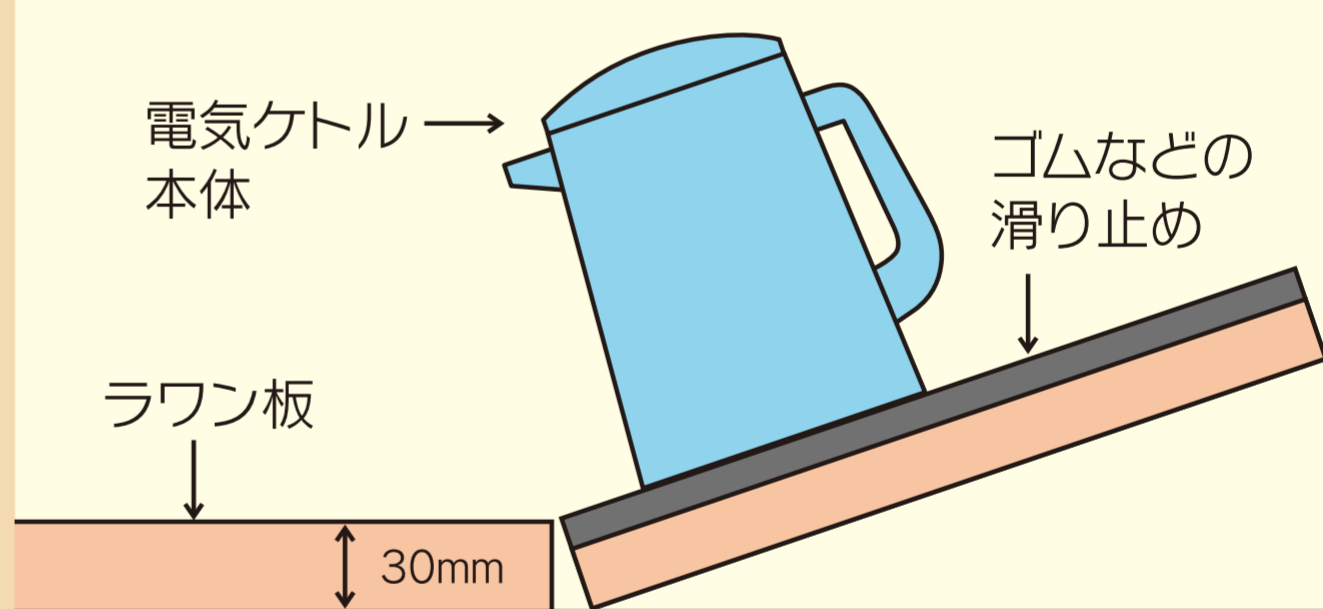
No.3



No.9

など

転倒流水試験の方法



流水量が範囲内

No.2

No.4

No.5

No.3

No.8

No.9

流水なし

流水量50ml以上

No.1

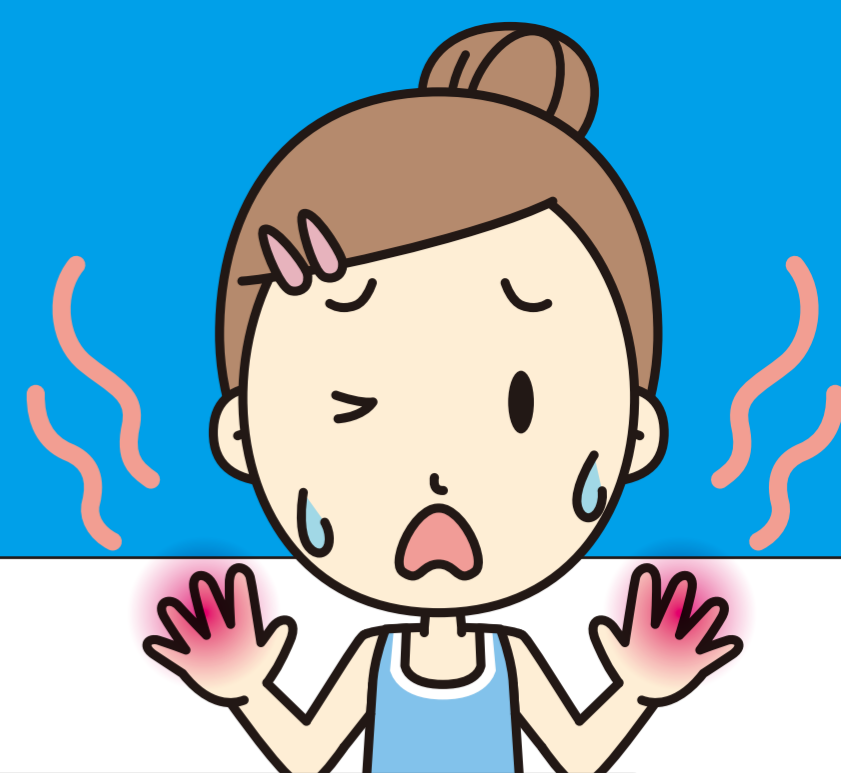
No.6

No.7

Sマークなし

電気ケトル テスト結果 ②

を調べてみました



→ 表面温度測定

JIS (日本工業規格) では、表面温度は「取っ手は80℃以下、スイッチなどのつまみや押しボタンは75℃以下」としており、測定結果では、**すべての銘柄で上蓋中央は65℃以下、取っ手内側は40℃未満で、JIS規格の範囲内**でした。

すべての銘柄がJIS(日本工業規格)範囲内

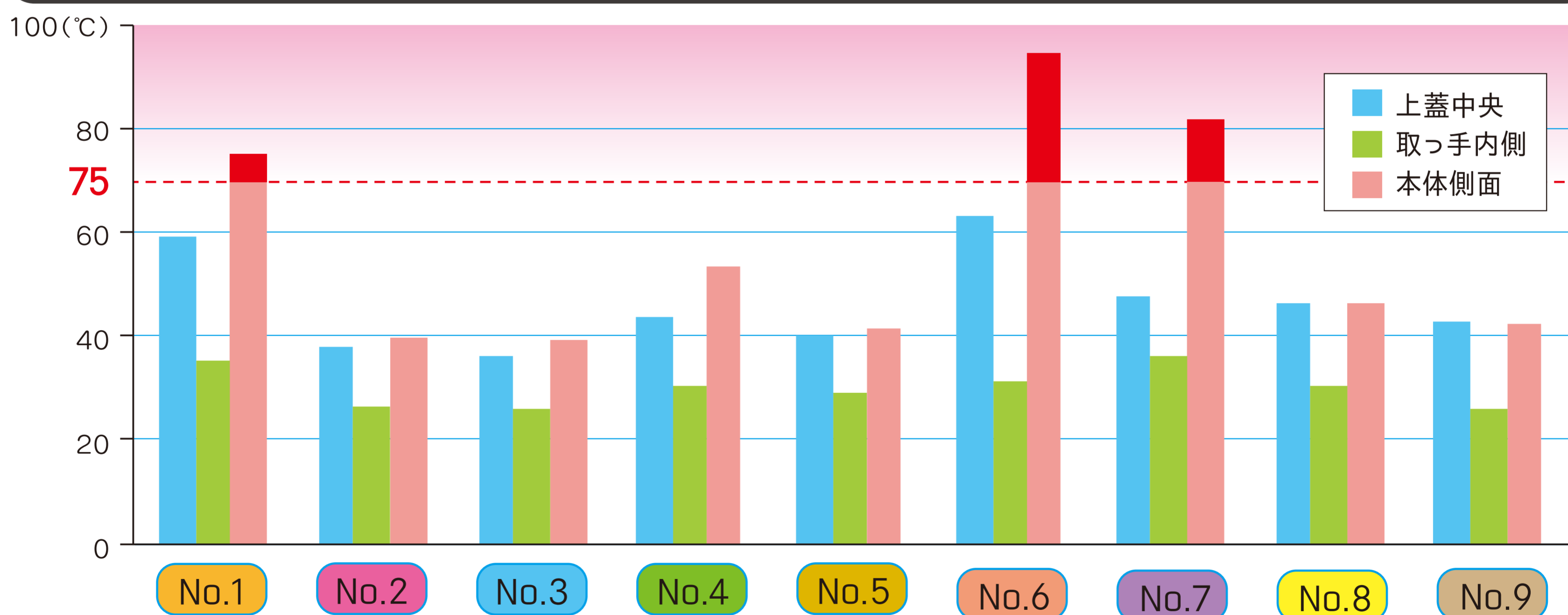
- No.1
- No.2
- No.3
- No.4
- No.5
- No.6
- No.7
- No.8
- No.9

ただし、JISには定められていないものの、**本体側面の最高表面温度が75℃以上**になる銘柄 **No.1 No.6 No.7** があったので、**取扱いに注意**が必要です。

沸騰直後の電気ケトル温度分布例



ケトル本体測定箇所の最高表面温度



→ 空だき試験

すべての銘柄で空だき防止機能が作動して自動で電源が切れました。
 なお、電源が切れる際に空だき警告のアラームが鳴った銘柄 **No.5** もありました。

電気ケトル を調べてみました

テスト結果 ③

→ 誤使用試験1 蓋が閉まっていない場合

誤って蓋が閉まっていない状態で湯を沸かした場合、自動で電源が切れるかどうかを調べました。

●蓋が完全には閉まっていない場合 1銘柄 **No.6** で電源が切れませんでした。

●蓋を完全に外した場合 7銘柄 **No.1 No.2 No.3 No.4 No.6 No.7 No.8** で電源が切れませんでした。

→ 誤使用試験2 定格容量以上の水を入れた場合

誤って定格容量より多く水を入れて湯を沸かした場合、多く水を入れるほど湯が注ぎ口から噴出する傾向がありました。



性能

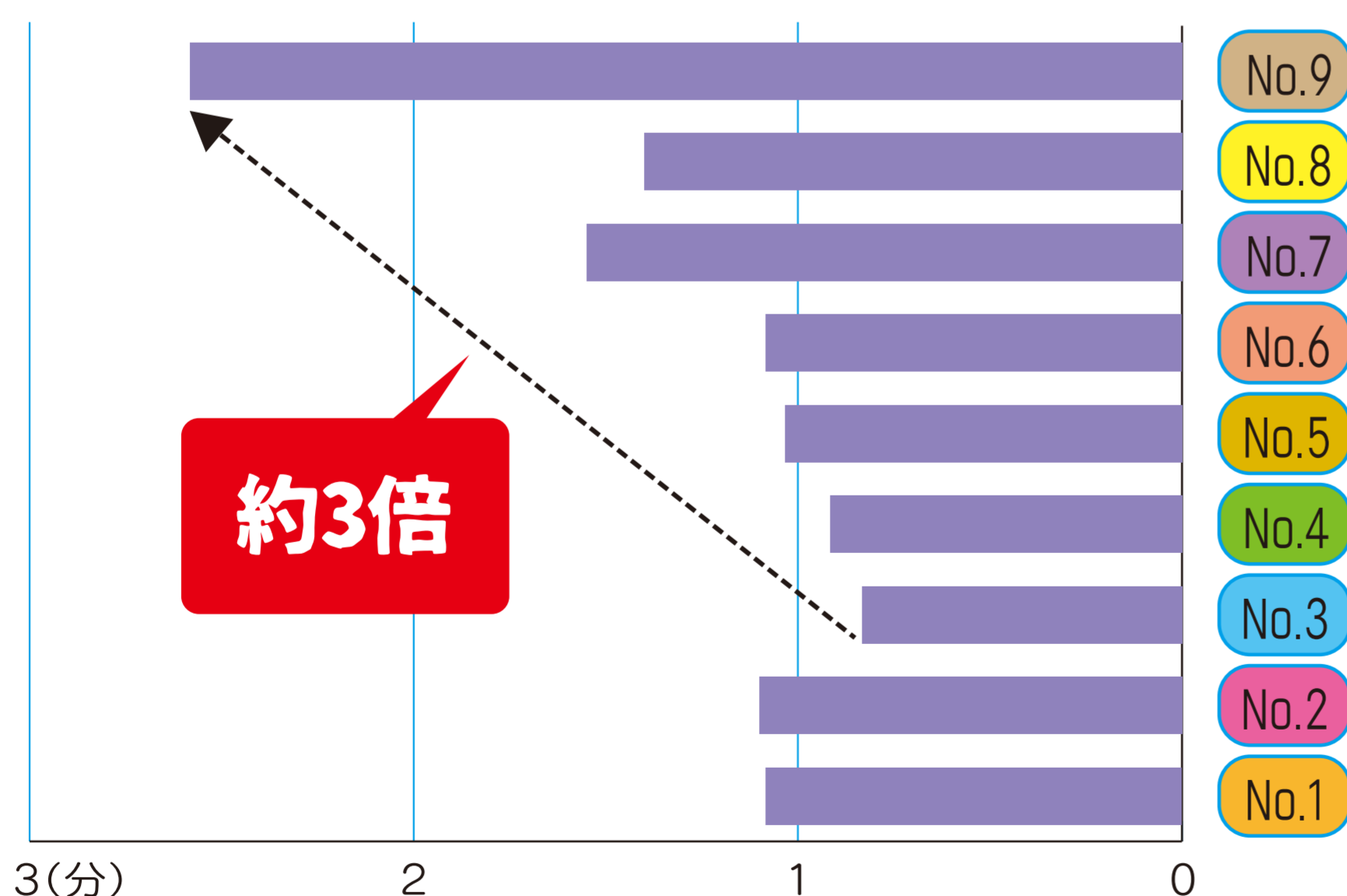
→ 消費電力

稼働時の消費電力と、表示されている定格消費電力との差は、すべての銘柄で、電気用品の技術上の基準を定める省令の基準の範囲内でした。

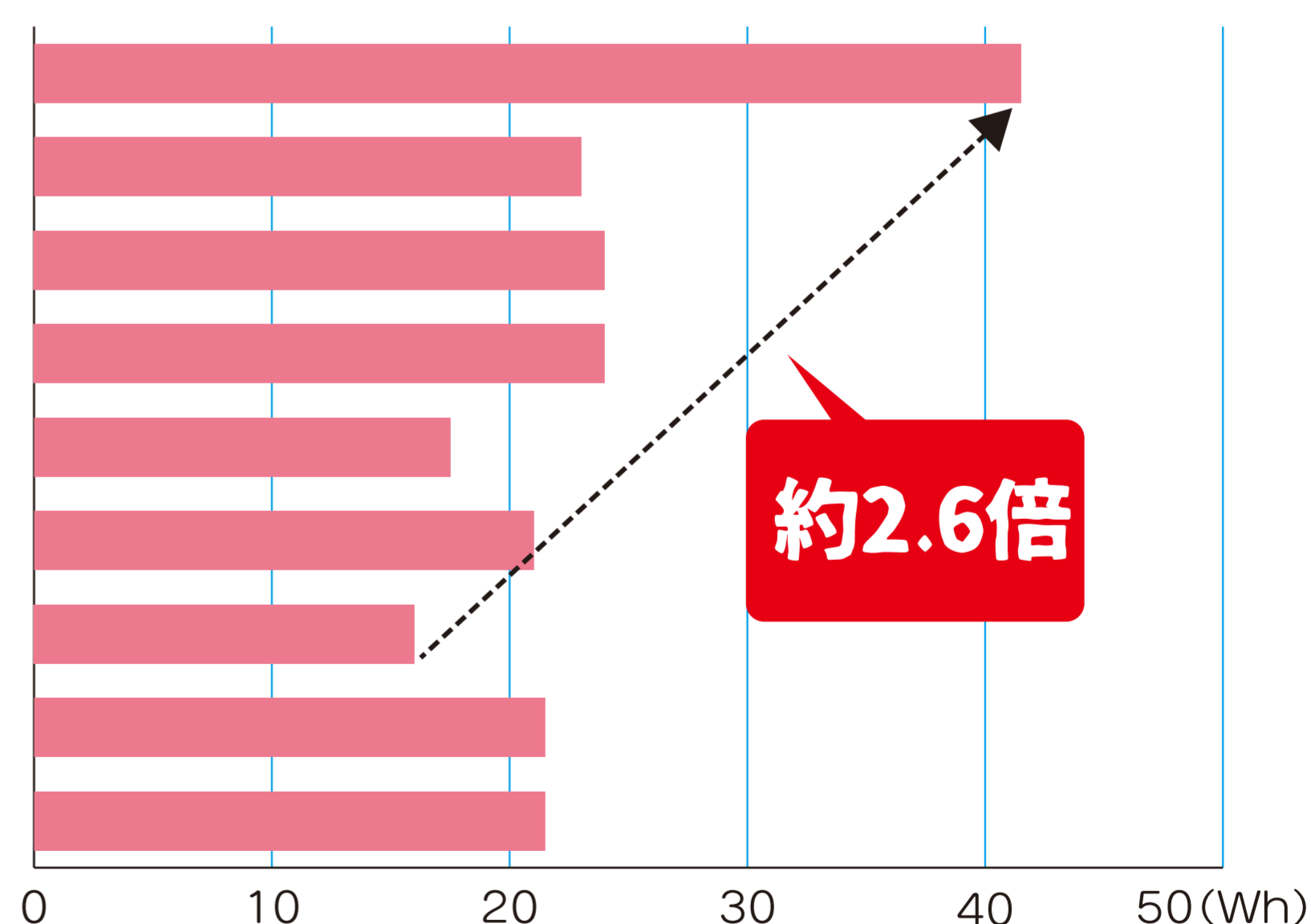
→ 加熱性能 (時間および消費電力量)

カップ1杯分(140ml)の湯が沸く時間は、50秒～2分35秒と銘柄によって**約3倍の差**がありました。また、その時の消費電力量は、16～42Whと銘柄によって**約2.6倍の差**がありました。

140mlの湯を沸かす時間



140mlの湯を沸かす消費電力量



→ 使用性

モニターによりテスト品を実際に操作して「湯の注ぎやすさ」や「手入れのしやすさ」等を調べたところ、「給水口が大きく、蓋を外すことができる銘柄が、給水や手入れがしやすい」等の評価でした。

購入時の留意点

- ① 銘柄によって、各種の安全機能や容量、湯の沸く時間、消費電力量、使用方法等に違いがあるため、**店頭で製品を見て、カタログや取扱説明書の仕様等を確認してから自分に合ったものを選びましょう。**
- ② ケトルが転倒した場合に湯が流出しない等、**より安全な銘柄を選びたい場合、店の電気製品専門スタッフに説明を求め、Sマークが付いている銘柄を選ぶとよいでしょう。**
- ③ 「給水口が大きく、蓋を外すことができる銘柄は、給水や手入れがしやすい」等の使用性評価を参考にしましょう。



使用时等の留意点

- ① 銘柄によって、給湯ロックや電源ボタンの位置等が異なり、使い方を誤ると**やけど等のおそれ**があるため、**取扱説明書をよく読んでから使用**しましょう。
- ② 消費電力900～1300Wが主流であり、他の器具と併用するとコンセント部が**異常発熱して発火するおそれ**があることから、**定格15アンペア以上のコンセントを単独で使用**し、使用時以外はプラグを抜いておきましょう。
- ③ ケトル全体がかなり**熱くなる銘柄**や転倒等で**湯漏れを起こす銘柄**もあるので、十分注意しましょう。特に子供のいる家庭では、**子供だけで使わせない、幼児の手の届くところでは使わない**ようにしましょう。
- ④ 蓋が閉まっていないと電源が自動で切れない銘柄があり、**給湯時のやけどを防ぐ**ためにも、**蓋を確実に閉めて使用**しましょう。
- ⑤ 湯が吹きこぼれ、**やけどをするおそれ**があるため、**満水目盛り以上の水は入れない**ようにしましょう。